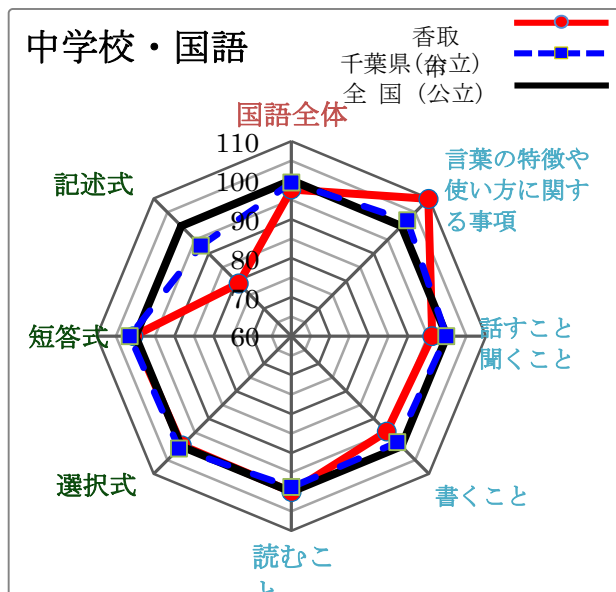


中学校・国語

傾向と課題



内容別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が全国平均を大きく上回りました。昨年度からの大きな改善が見られます。

問題形式別では、「短答式」が全国平均をわずかに上回りました。「選択式」は全国平均と同じでした。「記述式」は全国平均を大きく下回りました。

課題が見られた主な問題

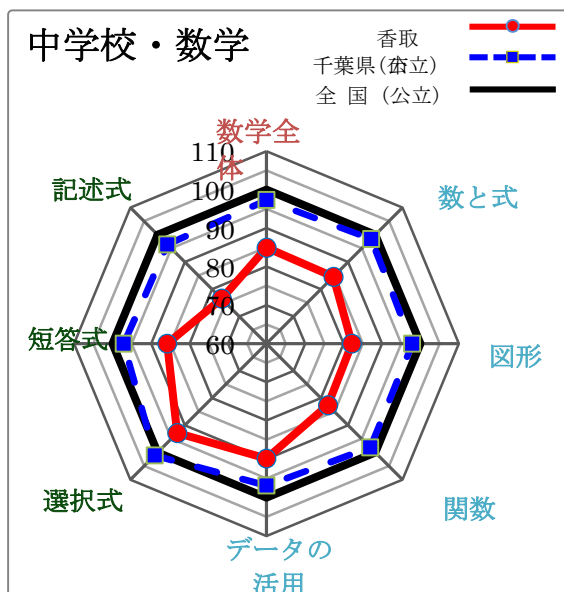
● 国語 4 二	読み手の立場に立って、語句の用法。叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかみる 【書くこと、記述式】 [香取市 22.5% 千葉県(公立)28.0% 全国(公立)30.1%]
● 国語 1 四	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかみる 【書くこと、記述式】 [香取市 25.3% 千葉県(公立)27.6% 全国(公立)31.0%]
● 国語 3 四	文の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかみる 【読むこと、記述式】 [香取市 11.6% 千葉県(公立)16.9% 全国(公立)17.1%]

力を入れたい学習

- 自分の考えが伝わる文章にする上で、根拠を明確にして書くことについての課題が見られる。根拠を明確にするためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。伝えたい事実や事柄を具体的に書く学習の充実を図りたい。
- 作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。文章の構成やそれがどのような効果につながるのかなど自分の考えをもてるようにする。
- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題がある。課題解決のためには、話の内容を踏まえた要点や根拠の明確化、中心となる事柄が強調されているか、自分の考えが分かりやすく伝わっているかを確認する学習の充実を図りたい。

中学校・数学

傾向と課題



領域別では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべてにおいて全国平均を下回っており、特に「図形」「関数」は、全国平均を100とした場合、香取市がそれぞれ82.2、82.6となる結果でした。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて全国平均を下回っています。「記述式」は、昨年度に比べ若干の改善は見られましたが、全国平均を100とした場合、香取市が76.5となる結果でした。

課題が見られた主な問題

● 数学4	1次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかみる【関数、短答式】 [香取市 22.4% 千葉県(公立)33.4% 全国(公立)34.7%]
● 数学6(3)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかみる 【数と式、記述式】 [香取市 32.9% 千葉県(公立)43.4% 全国(公立)45.2%]
● 数学9(2)	図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて、ある事柄が成り立つことを証明することができるかどうかみる【図形、短答式】 [香取市 23.9% 千葉県(公立)31.6% 全国(公立)33.2%]

力を入れた学習

- 数と計算の領域では、素数、外角、増加量、相対度数などの数学固有の用語の意味理解に課題がある。読み上げ学習を活用した、基礎基本の徹底した理解。用語を使って説明・発表する練習、用語を使って文章で表現する機会の充実が必要である。
- 数量及び数量の関係を捉え説明する場面では、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明するために、数量やその関係を文字を用いた式で表すことが大事である。
- 日常生活や社会の事象を考察する場面では、問題解決の方法について数学的に説明できることが大切である。見出す、自分で取り組む場面で、課題を明確にし、解決の方向性を創造していく活動の充実が考えられる。また、自分の考えを記述する学習の充実が必要である。

中学校・理科

IRT スコア

IRT（項目反応理論）：児童・生徒の正答・誤答が問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童・生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童・生徒の学力スコアを推定する統計理論。IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準に得点で表すもの

	IRT 平均値	全国とのスコアの 割合比較	標準偏差
香取市	491	97.6%	119.5
全国（公立）	503	100.0%	124.0
千葉県（公立）	496	98.6%	120.1

課題が見られた主な問題

● 理科7（2）	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる 【粒子・生命、選択式、難易度5】 [香取市 35.3% 千葉県(公立)50.1% 全国(公立)51.6%]
● 理科7（1）	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかみる 【生命、選択式、難易度5】 [香取市 29.4% 千葉県(公立)36.1% 全国(公立)34.8%]
● 理科6（2）	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の断面図や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる 【粒子・生命、選択式、難易度5】 [香取市 36.4% 千葉県(公立)42.1% 全国(公立)41.9%]

力を入れた学習

- 化学変化に関する知識と「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域の事象を関連付けて考える必要がある。生徒が関心を高められるように、日常生活との関連性の理解や課題の把握から課題の解決まで実験・観察のプロセスを大切にした学習をすることで、領域を関連させて思考する力が醸成されると考える。
- 「生命」の領域では、観察し記録をする際に、動画、写真、スケッチのそれぞれの良さを理解し、どの方法の記録が適切であるか主体的に判断する事が大切である。記録の観点を理解し、観察に関する技能の習得をめざす必要がある。